京より宝鏡院という修験者が長倉沢を訪れて庵を結んでいた。冬のある日、宝鏡院は用水路工事現場近くの盛街道の雪上をウサギが横切った足跡を発見し、街道の地下に隧道（トンネル）を開いて通水することを普請奉行（土木工事や武家屋敷の管理にあたる職名）に申し述べた。その結果、穴山隧道を開削し、樋茂井堰はほどなくして完成に至ったと伝えられている。

宝鏡院の庵の跡は開田されているが、信仰碑や供養碑など石碑が残されている。

28 鹿股堰

人首川の狭窄部、一の関揚げ場（愛宕神社の下）から取水し、地区内人首川右岸の一帯に灌漑する用水路である。

慶長五年（一六〇〇）藩主伊達政宗の命によって、家臣鹿股重助、その子五郎右衛門盛助、子助元と代々引き継いで開鑿、開田に務めたという。

その恩恵を称えて、鹿股堰ととなえ、大森観音境内に顕彰碑が建立されている。

延長　約一五㌔

受益水田面積　約一五八㌶

29 中堰

人首川上上野取水口より取水し、四日市場（矢ノ目沢落合）までの用水路である。

角掛村三堰の一つで、年代は不明であるが最も古いと伝えられている。

延長　約三・九㌔

受益水田面積　約六五㌶

30 千刈田堰

嘉吉年間（一四四一～一四四三）開堰と伝えられている。

大森前揚げ場より取水、四日市場で掛樋によって千刈田、朝日野地域に灌漑している。

次丸大橋付近で使用されていた杉材の樋は、現在も玉崎神社に祀られ、保管されている。

延長約　二・一㌔

受益水田面積　約二六㌶

31 次丸追分の碑

人首街道の高杉塚、玉崎神社を過ぎ、木ノ下前から人首川に沿って東に進むと、次丸中島橋の手前に古い松が生え、野手崎街道との分岐点がある。

野手崎街道は南部藩への街道で、女物が往来していた。

ここに、『大乗妙典一字三礼書写供養塔』安永九庚子年銘の石碑がある。

この下方に「右ひとかべ道　左　のでさき道」との道標がある。

32 柳沢発電所跡

（玉里字柳沢）

（○が柳沢発電所　江刺郡志より）

「水沢電灯株式会社（明治四五年～大正一〇年）に人首川の水を利用し、この地に柳沢発電所を建設し、出力七〇キロワットにて大正三年一月一日当時の水沢町、岩谷堂町、玉里村に電力を供給した。

当時の需要は電灯一、二四五戸、電力一五戸（五三馬力）。その料金は、電灯一〇円、燭光六〇銭、電力一馬力五円であったという。

我が国に電灯が点ぜられて以来、百年を迎える今日、この地の電気創業を偲びここに記念碑を建立する。昭和五一年一〇月」と『胆江地方電気発祥の地』の記念碑を建立した。

当初大和田坂水田用水路の底、側面に松の厚板で漏水防止をして用水利用、のち水量確保と経費節減の為、隧道掘削で用水確保して発電に努めた。

33 白山滝

（玉里白山通地内）

龍宮一商店の上方、人首川が曲折して流れ、岸、河中に奇岩・怪石が多くあり、その間が渓流淵となり、瀬となり、滝となってながれる。

白山滝明神の下は殊に深く、玉里の由来ともなっている『宝晶の玉』伝説の深淵がある。

封内風土記角掛村の項に「白山瀑布。在白山権現社下角掛川中。而白其高、一間許之岩上直下。其潤四間余」と記されている。又安永風土記に「高さ一丈八尺、横六尺角掛川之内」とある。

34 角掛森古館跡

（玉里字森下）

館の北、西は岩石が切り立ち、人首川が据を巻いて流れ、南は急な傾斜で空堀を穿ってある。東はなだらかで人首街道に通じている。

大断崖上に構えられた山城であり、角掛四郎兵衛重勝の居館と伝えられている。また、白鹿をとても愛でており、常に松の下でともに余暇を過ごしていた。その際に白鹿が松の枝に角を掛けて休んだことから「角掛森」と呼ばれる所以とされている。

昭和四五年（一九七〇）工事の際、開元通宝をはじめ一二〇〇―九〇〇年前の中国古銭四〇〇枚が出土した。

35 角懸森古墳

（玉里字上樋茂井野）

角掛村の村名の由来とも伝えられる塚状の森。

肥前の松浦佐用姫が胆沢の大蛇に呑み込まれそうになった際、一心に読経して大蛇に仏果を得させ、錫杖で欠いた大蛇の角がこの森に飛んできて突き立ったことから角懸（欠）森と称されるようになったと伝えられている。